

とし、毎年幾十百の牧畜をして、或は吹き拂はれ、或は砂中に埋没せらるゝ事ありて、慘絶、凄絶、酸鼻に堪へざらしむと。然るに之に反し斯く大風の中に、往々空中より數十の羊群天降り、土人は不時の獲物を喜び、大牢の美味に舌鼓を打つの奇を演出すること有り。さるにても斯る怖るべき危険の地に在つて依然其處に棲息する彼等が心事果して如何をや。

十三間房  
の風

曩に三道嶺<sup>サンタオリン</sup>への途中にて岐れたる西北路は、沙泉子より鴨子泉<sup>ヤブズチヨワン</sup>の北西に到りて本道に合し且つ三道嶺<sup>サンタオリン</sup>より石炭採掘地に達する別路は、瞭墩<sup>ビテン</sup>に於て本道に合す又瞭墩より西南に向ひ、十三間房へ三日、夫より關展<sup>ビテン</sup>へ三日、合計六日の行程路にして而も通路平坦、水草共に潤澤なるも、彼の大風の多きが故に到底車輛を牽ぬ難きのみならず、能く其の状況を熟知する者に非ざれば、通過し得べくもあらずと。聞く纏頭は、驢馬に跨りて屢々是を過く、途中には空房の風難を避くべきもの點々相存すと云へり。

### 三 馬驛子<sup>マーポーズ</sup>とは何ぞ

八日午後三時五十分出發、同十二時行程約十一里、一碗泉<sup>イチワンチヨワン</sup>に到りて宿す。此所に